

SARscape インターフェログラム画像へ位置情報付与手順

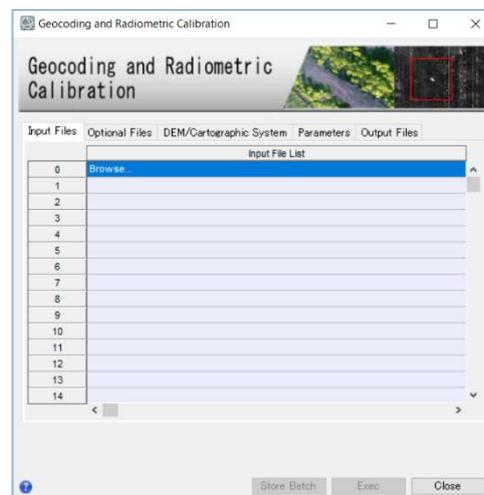
【目的】

インターフェログラム画像 (InSAR/DInSAR 処理では Adaptive Filter and Coherence Generation を実施後に出力される_fint など)へ位置情報を付与した画像の作成手順を紹介します。位置情報があることで、画像や GIS データとの重ね合わせが容易になります。

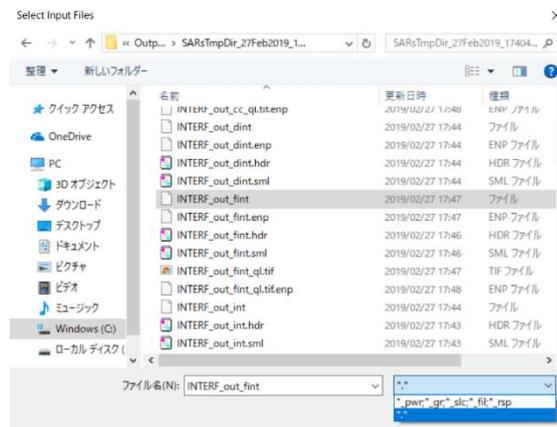
【操作】

DInSAR 処理で Adaptive Filter and Coherence Generation を実施後に出力される_fint 画像を例に使用します。

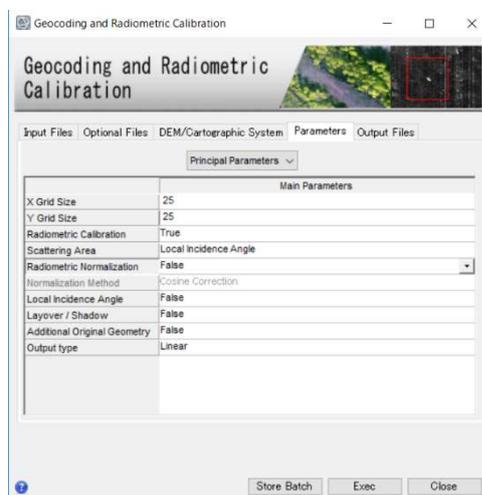
1. ENVI Toolbox > SARscape > Basic > Intensity Processing > Geocoding > Geocoding and Radiometric Calibration を起動してください。



2. Input Files タブの Input File List のフィールドをクリックし、ファイル選択ダイアログを表示します。拡張子にフィルタがかかっているため、ファイル名の横にある拡張子のフィルタを「*.*」へ変更してください。



3. Optional Files では GCP ファイルの選択、または GCP の作成が可能です。必須ではありません。
4. DEM/Cartographic System タブでは、DInSAR で使用した DEM を使用することが可能です。
5. Parameters タブの Principal Parameters の設定を変更します。
Grid Size: DInSAR で設定した Grid Size を設定
Radiometric Calibration: False



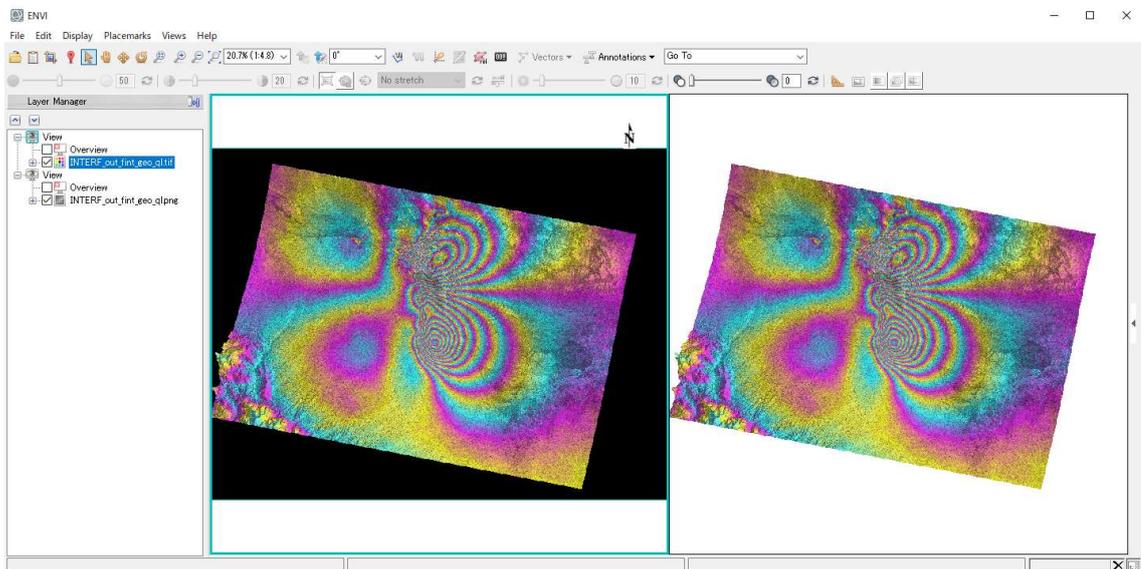
6. TIFF や PNG 形式の画像が必要な場合は、Parameters タブの Global の設定を変更します。
Generate Quick Look: True
Quick Look Format: TIFF/PNG/TIFF and PNG から選択してください。



7. Output Files タブで出力ファイルを確認し、任意で変更してください。

8. 出力データ

出力ファイルに Output Files タブで設定した ENVI 形式のファイルが出力されます。Quick Look ファイルを作成した場合は、拡張子が.tif と.png のファイルも同時に出力されています。以下は Quick Look ファイルの出力を表示したものです。



左: TIFF / 右: PNG

【Google Earth への貼り付け】

KML ファイルへの出力が必要な場合は、以下のメニューから作成してください。
 ENVI Toolbox > SARscape > General Tools > Data Export > Generate Google Earth KML File



Geocoding 処理で出力した ENVI 形式の「_fint_geo」画像を入力ファイルへ選択してください。

Parameters タブの Global の設定で、Quick Look Format を選択可能です。PNG を選択することで Google Earth に貼り付けた際にデータ範囲外を透過させます。